

3. みんなで支えるまちづくり

これから始まるまちづくりの道標です

(1) まちづくりの目標と将来像

本計画の策定に当たっては、将来都市構造や部門別のまちづくりの基本方針に対し、一貫性のある検討が展開されるように、上位計画も考慮した「まちづくりの目標」と「市民生活の将来像」を設定しました。

目 標

- 緑と黒潮に育まれた、南那珂圏域をリードする元気な人や産業がある”まち”にします
- 投資効果の経営的視点をもって、「日南型のコンパクトシティ」を創ります
- そのために、「どこをどんな場所にするか」の基本方針を定めます

将来像

“笑顔はじける まち 日南”

～ 市民自らが日南を支えていると実感し、人が集い、誰もが笑顔で暮らせるまち ～

“魅力あるまち” “元気なまち” “安心・安全なまち” “支え合うまち”

(2) 目指すべき将来都市構造

まちづくりの最大目標として掲げた「コンパクトシティ^{*1}」の形態は、「一極・高密度集中型」の構造が、社会資本の投資効率から見れば最適です。

しかし、本市の合併の歴史や地形特性を基に形成された都市構成を考慮すると、現在、分散している生活拠点の特性を活かし、各生活拠点を連携するネットワーク^{*2}を構築することが重要となります。

したがって、本市の将来都市構造は、拠点分散・ネットワーク型を目標とした「日南型のコンパクトシティ」の創造を目指します。

^{*1}「コンパクトシティ」：都市的土地利用の郊外への拡大を抑制すると同時に中心市街地の活性化が図られ、生活に必要な諸機能が近接した効率的で持続可能な都市、もしくはそれを目指した都市政策のこと。

^{*2}「ネットワーク」：つながり。この場合は道路のほか、公共交通としてのバスや鉄道も含まれる。

(3) 将来都市構造の形成方針

「日南型のコンパクトシティ」の形成として、地域の要となる 2 種類の「拠点」と 1 つの「ゾーン」および各拠点形成の骨格となる連携の「軸」を以下のように設定します。

▼ 拠点分散・ネットワーク型の構造概念図

◆地域生活拠点◆

身近な生活圏で、生活関連施設として買物、教育、医療・福祉、文化・集い、交通拠点などの各都市機能が複数整った拠点。

◆集落生活拠点◆

地域生活拠点から離れた位置で、比較的多くの住民が暮らす集落を対象に、日常生活の機能の維持を優先した地域コミュニティの拠点。

◆コアゾーン◆

地域生活拠点のうち、市民のための生活利便性が最も高く、多様な都市活動が展開され、さまざまな交流の展開が可能な都市の中核機能を集積させるゾーン。

